



ありがとう、ロータリアン！ ② ロータリーがくれた母との絆



米山記念奨学生

王 磊さん

出身国：中国

奨学期間：2010 - 12

学校名：島根県立大学大学院

世話クラブ：益田RC

母とのわだかまりが解けた夜

今年3月末から6日間、母が初めて日本に来ました。実はその数日前から、私は母と何を話せばいいのか、悩んでいました。家庭の事情で、5歳まで祖母の元で育った私は、両親との間の壁を、ずっと感じて生きてきました。母と同じ部屋で寝たことも、二人でご飯を食べた記憶もありません。

母が来た日、私たちが旅館に入ったのはもう深夜でした。カウンセラーの田原裕司さんから「お母さんとゆっくり話してください」と言葉をかけられ、部屋に入りました。それから窓を開け、星空と、日本画のような益田の街並みを眺めるうちに心が落ち着きました。

母が荷物の中から「今朝作ったものだよ」と、私の好物の茶玉子を出してくれました。食べながら、あらためて母の顔を見ると、白髪もしわも増え、年を取ったのだと強く感じました。ふいに、感謝と申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。今も勉強を続ける私を、両親は余裕がない中で、ずっと支えてくれているのです。

「すみません。一人前になったら、必ず幸せにします！」と思わず言った私に、「今も幸せだよ。おまえが日本で頑張っている姿を見たから、幸せだよ」と、母は笑って言いました。その夜はあまり眠れず、これまでの人生を思い返していました。

この方々は本当の日本人ですか？

来日前の韓国留学中に日本人と知り合ったのを機に、



来日した王さんの母(前列中央)を囲んで

「自分の目と心で、本当の日本を確かめたい」と思い、さらに日中韓の地域経済開発の専門家となる夢を抱いて、島根県立大学大学院北東アジア開発研究科に入学しました。米山記念奨学生になったのは昨年4月。益田ロータリークラブ(RC)の皆さんの厚意を受け、それに応えるために何かをしたい、と田原さんにも相談した結果、皆さんを私の故郷に誘うことにしました。

昨年8月、浙江省金華市に益田RCから8人の方々を迎え、夜は、私の両親と食事を共にしました。大畑実会長(当時)の中国語のあいさつを、両親は感動して聞いていました。二人が日本人に会ったのは、この時が初めてです。そして、その場で奨学金をいただきました。

この日は、会食した食堂に勤める従業員の、日本人への印象も変えたようです。食後、従業員の方から「この方々は本当の日本人ですか？」と聞かれた両親は「そうです。息子が日本のロータリアンと出会ったことは、人生の宝物です」と、胸を張って答えていました。

カウンセラーは人生の師

私から田原さんに、両親との関係を相談したことはありませんでしたが、この時、私と両親との間に壁がある、と気付かれたようです。日本に戻ると、田原さんからメールが届きました。そこには一家だんらんをテーマにした雑誌の記事が添えられていました。

「家和して万事成る ——家が和やかで安住できてこ

12月は、クリスマスや年末の帰省など、家族で過ごすことの多い月です。ロータリーでも「家族月間」として、家族に関するさまざまなテーマが取り上げられます。新シリーズ「ありがとう、ロータリアン！」の第2回となる今回の「よねやまだより」は、そんな家族月間にぴったりの、お母さんとの心温まるエピソードを寄せてくれた現役奨学生、王磊さんをご紹介します。

そ、世の中で事を成し遂げることができる」という田原さんの教えから、私は自分のこと、家族のことをあらためて見つめ直しました。

初めて会った田原さんは、正直に言えば、ちょっと冷たい印象でした。しかし、今は私の人生の師と呼べる人です。大学の先生からは知識を学び、田原さんからは社会を学んでいます。海外出張にも何度も連れていってくださり、国際経済を研究する私に、机の上では学べないことをたくさん教えてくださいました。普段は寡黙で、静かな印象を受けますが、本当はとても熱心な方です。

与えるからこそ、人は温かくなれる

母の滞在中、益田RCの皆さんは忙しいのに、母を歓迎してくださいました。帰国前夜、母は、私にこう言いました。「おまえは、ロータリーの皆さんと出会ったことに、一生の恩を感じるべきだよ。皆さんの姿を見て、心で感じて、成長してほしい。母さんは今、幸せだよ」

厳しい母の口から何度も聞いた「幸せ」の一言、皆さんのおかげだと思います。私も、皆さんのおかげで心の壁を超えて、母の心を理解することができました。

「与えるからこそ、人は温かくなれる」

益田RCの皆さんの奉仕する姿を見て、私が見つけた答えです。ロータリーと出合ったことで、人としてどう生きるかについて、大きな示唆をいただきました。

将来、希望通り、故郷の大学で教鞭をとることができたら、韓国と日本で勉強した知識・経験だけでなく、皆さんの行動を通じて学んだロータリーの精神を、若い学生たちに伝えていきたいと思います。

田原裕司氏から一言

王君は、当クラブが初めて受け入れた米山記念奨学生です。目標に向かって、一生懸命に勉学に取り組んでおり、支援の甲斐を感じています。王君自身も感謝し、会員と積極的に交流を図っているので、できる限り応援しようと皆で話しています。昨年、クラブの有志で王君の故郷を訪ね、ご両親と会えたことは、互いの理解を深める上で大変意義がありました。これからも勉学に励み、まず博士課程を無事修了して、将来は日中韓三国の懸け橋として活躍してほしいと願っています。



ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、(財)ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

TEL：03-3434-8681 FAX：03-3578-8281

Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp

「中日の友好」をテーマに開催！ —— 中国米山学友会第3回総会・懇親会 ——



大勢が参加し、交流した第3回総会

中国米山学友会第3回総会が10月22日、北京市内で「中日友好のために 私たちの使命」をテーマに開かれ、日本のロータリアンら約50人と米山学友約80人が参加しました。来賓の前駐中国日本大使・宮本雄二氏は講演で「アジアの未来のためには、とりわけ日中間の協調が必要」と語り、民間交流の重要性を強調しました。午後の懇親会では学友会活動が報告され、交流の花が咲きました。昨年引き続き参加した関場慶博氏(弘前RC)は「会って話すことで、より深く彼らの活躍を実感できる。奨学金が彼らの国の発展、日本との相互理解の向上、ひいては国際理解、世界平和に寄与していることを痛感した」と、感想を寄せてくれています。